

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎県宮崎市吉村町井出ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく・生き生き・のびのびと暮らそう自由ヶ丘」を理念に掲げ、利用者がその人らしく、出来る限り本人のペースで暮らして行く事が出来るよう、日々のケアを行っている。
また、そのために職員が笑顔忘れず、元気でのびのび出来るよう、常に心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは医療法人が母体であり、通所介護施設と併設している。近隣には小・中学校や病院、大型スーパーなど社会資源等の豊富な場所に立地している。管理者は日頃より意見の言いやすい、働きやすい職場づくりに努めている。全職員が理念の意義を理解し、利用者がその人らしい満足した日々を過ごせるように取り組んでいる。また、感染対策中は、ストレス解消のためのレクリエーションや、車窓を楽しむ車から降りないドライブ等、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等で理念を唱える時間を設け、職員間で共有を図っている。また、理念である「明るく・生き生き・のびのびと」を常に念頭に置き、それを踏まえたケアの実践を行っている。	開設当初からの理念であるが、見直しは毎年行っている。職員会議の冒頭、全職員で理念を唱え、共有して実践できるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の納涼祭や防災訓練等へのイベント参加も行っており、文化祭への作品出展もしている。また要請があれば、地区のサロンに参加し、認知症の勉強会や予防体操等を行っている。	地区の自治会に加入している。公民館で開かれるサロンや色々なイベントへの参加、ボランティアとの交流も行っていたが、現在は感染対策のため休止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用して、定期的に認知症のミニ講座等を実施している。地域の方々にも運営推進会議構成員を通じて声掛けをお願いし、参加していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や活動状況等の報告を行い、意見・助言を頂いた際は、職員間で共有し、運営に反映させている。また、地域の方々にも、防災訓練を実際に見に来ていただき、会議で意見・助言を頂いている。	感染対策として実施できない場合は、書面を郵送して、後日電話等で意見や助言を聞き、サービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区の地域包括支援センターの方々には、毎回運営推進会議に参加して頂き、相談、意見交換等を行っている。また要請があれば、認知症サポーター養成講座に参加し、市町村担当者と協力関係を築いている。	会議の進め方の助言や、介護保険の手続きについて相談している。また、スタッフが認知症サポーター養成講座に参加し、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回、身体拘束についての勉強会を行っており、外部の研修会にも年に1回は必ず参加し、伝達講習を行っている。また、日中は玄関の施錠はせず、外に出られる際は職員同行し、安全確認を行っている。	職員会議の中で、全職員が身体拘束の弊害を学び、理解してケアに取り組んでいる。ストレスによる身体拘束発生予防のために、2か月に1回、ホーム独自の「心と体のチェックリスト」を使い自己評価をして、ケアの低下防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通じて、虐待防止について学ぶ機会を設けている。家族来所時は利用者の普段の様子や変化を必ず報告し、家族との外出・外泊後は、変化がないか、身体の様子も観察している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての外部研修にも定期的に参加している。学んだ内容は、職員会議等を通じて、伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、料金等改定の際は、ゆっくり、わかりやすく説明することを心掛けている。また、進めていくうえで不安・疑問があった際は、再度丁寧に説明を行うことで、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会を開催しており、意見・要望を頂いている。頂いた意見・要望を、職員会議、運営推進会議等を通じて共有し、改善を図っている。コロナ禍においては、必要に応じて、電話や文書等で意見を頂いている。	家族会は以前より開催しており、議事録等はいつでも開示し、そこで出た意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を定期的に行っており、意見・提案等を聞く機会を設けている。出た意見・要望等は、運営に反映できるように、努力している。	管理者は日頃より職員が話しやすい環境づくりに努めている。管理者レベルで答えられない事柄については事務長や理事長に相談して改善できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職場環境等については、管理者からその都度報告を受けている。職場環境の不具合等に対しては、迅速かつ早急に整備対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を把握し、実践者研修やリーダー研修等を受ける機会の確保のほか、介護福祉士、看護師、介護支援専門員などの資格取得も積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会等へ自発的に参加できるよう支援に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族はもとより、入所前の担当の介護支援専門員の方や居宅介護支援事業所の方々からも情報を頂き、本人の意志を尊重できるよう、サービス導入に向けて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安な気持ちや困っておられること等を傾聴し、当事業所でできる事を説明した上で納得して入所して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状や本人、家族の希望を把握し、今何が必要かを確認しながら、支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって過ごしやすい環境で暮らせるよう、本人の話や訴え希望など傾聴し、解決に向けて本人も交えて話し合いをし、より良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が疎遠にならない様こまめに連絡を取り、家族の協力を得ながら本人をサポートできるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの人が気兼ねなく来所できるような雰囲気づくりをしたり、馴染みの場所への外出を家族に協力して頂いている。また、施設でもドライブ等を計画するなどに努めている。	テレビ電話を使い、顔を見ながらの電話や、玄関でガラス越しの面会など、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルに繋がりがねない場面では間に職員が入り、利用者のフォローやケアを行い、孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見掛けすれば声を掛けたり、立ち寄って下さる際に近状の様子や本人・家族の話を伺う等を行っている。相談事があれば連絡をもらえる関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望で落ち着かれなかったり不安になれる場合は、ゆっくりと時間をかけてそばに寄り添っている。また、家族と電話や手紙のやり取りの支援を行っている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)などを活用して、日頃から利用者の何気ない言葉や行動、表情を把握し利用者本位の支援に努めている。家族や関係者からの情報も全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力して頂き、入所前の生活の様子や、趣味や好みを伺いながら、今まで知らなかった情報等を、随時取り入れながら、以前と近い暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまで出来ていたことがだんだん出来なくなってきたり、気分の落ち込みで出来ない日もあることを理解し、入浴、口腔ケア、レクリエーション等を通して、持てる力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・要望をもとに、現状の課題についてケア会議やミニカンファレンス等を行い、職員の意見も反映し、見直しや修正を行っている。	利用者の担当者が、本人や家族の意向を含め毎月モニタリングし、全職員が参加するケア会議の意見を反映した介護計画を作成している。3か月ごとに短期目標の評価と見直しを行い、全職員の合意と共有を確認した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃聞かれない言動・表情・行動等、新しい発見があった時は記録に残し、職員間で共有しケアに活かしていくよう心掛けている。また、記録にペンの色を変えたり、囲み等も取り入れるなど工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科や皮膚科など利用者に応じ往診を依頼している。また、家族の支援が難しい利用者は病院受診の際、福祉サービス事業所等の手配や利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の傾聴ボランティアの方々による月1回の訪問や、民生委員の方が開設以来、歌の練習に毎週訪問して下さったりと、毎日の暮らしの中の楽しみの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にして、本人が安心して適切な医療を受けられるように、受診の際に現状を文書にして報告している。また必要時は直接出向いて、主治医に相談もさせて頂いている。	本人や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医を継続している。受診時には現状提供(書面)を携行したり、直接、医療機関に連絡や指示を伺い、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で気づいた情報は、その日のうちに、看護職に報告を行い指示を受ける様にしている。また、状況を見て受診等が必要であれば迅速に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時速やかに医療機関との情報が共有できるように、入院時の看護・介護サマリーなどの準備を行っている。入院された際は、医療機関にも足を運び、病院関係者と情報交換等にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に急変時の意向確認書の記入をお願いしている。面会時やサービス担当者会議等において、家族に現状報告を行っており、状況を見て再度意向確認を行い、終末期のあり方や当事業所で出来る事等について話し合うようにしている。	入居時に重度化や終末期、看取りについて、ホームでできる事を説明し意向確認書を交わしている。看取りには、看護職員及び運営母体の医師や訪問看護師で支援し、家族の希望で宿泊もできるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の都度、その場に遭遇した職員から状況を細かく聞き、対応で困ったこと等を話し合い、今後の対応策等の検討を行うことで実践力を積み重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルのもと、年2回の防災訓練を実施している。訓練時には、地域の方々や地元消防団の方々にも参加をお願いし、火災・地震・津波においての意見・助言等を頂いている。また、防災物品も常備している。	ホーム独自で夜間想定の方災避難訓練を年1回とデイサービスのと合同で年1回の訓練を実施している。消防団や民生委員の参加をお願いしているが、近隣住民との協力体制が十分とは言い難い。	近隣の消防署や消防団をはじめ近隣住民との協力体制の構築に今一度取り組むことに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、本人に了承の声掛けを行っている。また、他の方の居室に勝手に入ろうとされる利用者もおられるので、その時は、さりげなく他の事に気を向けられるように誘導するなど配慮している。	人格やプライバシーポリシーについて、利用者にだけでなく職員同士の会話や行動にも配慮するよう取り組んでいる。呼称や居室の入室許可や、排せつ、入浴時の羞恥心にも配慮し一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしていいかわからず不安な表情や言動が見られる方については、空腹感からなのか、トイレのサインなのか等を探りながら、おやつを提供をしたり、トイレにお誘いしたりと、臨機応変に対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を見て1日の行動を決めている方は、その人の過ごし方を尊重しており、目覚めの遅い方、昼寝をされている方については、食事時間をずらして提供したりと対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、馴染みの店に行かれている方、家族が散髪される方以外の利用者は、訪問カットを利用している。コロナ禍に於いては、職員が散髪を行い、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では手作りケーキでお祝いしたり、本人の好物を食事に出している。普段の食事においても、食べやすくカットしたり、歯の治療中の方にはやわらかくするなどして、食事を楽しめる工夫をしている。下膳・テーブル拭き・食器洗い等を手伝って下さる事もある。	誕生祝や行事食、食べたい献立、おやつ作りなど、利用者も参加し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量・水分量をチェックし、必要量が確保できているか把握している。水分は多めに飲めるように好みの物を出したり、熱めや冷たい等の好みにも配慮している。入浴後には、経口補水液の補給もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、3食後に口腔ケアを行っている。口臭、舌苔のある利用者には、舌ブラシ、口腔ティッシュを使用している。出来るだけ本人に行ってもらい、不十分な際は声掛け・介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら利用者に合わせたトイレ誘導・声掛けを行っている。失禁の少ない日中は布パンツ、失禁の多い夜間はパット使用など、利用者の能力に応じて使い分けている。	便所・便器絵柄で場所を表示している。排せつパターンを職員が共有し、日中は全員トイレでの排せつを支援し、排せつの自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便のリズムを見極め、下剤の過度な服用が無いようコントロールしている。食事の偏りが無く、十分な水分摂取量となるよう、注意・観察しており、また、日々のレクリエーションで便秘予防体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は職員側で決めてしまっているが、入浴の声掛けに応じられない利用者に対して無理強いをせず、時間をずらして改めて声掛けしたり、日にちを変えて対応するなど、柔軟に支援するよう心掛けている。	週2～3回の入浴であるが、体調や気分に合わせて柔軟に対応している。リフトや滑り止めマット、足台を使い、全員が安全で安心してゆっくり浴槽に浸かれる支援をし、柚湯などで入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間・起床時間などある程度は本人の生活リズムに合わせている。また、利用者の体調に合わせて、昼寝の時間を設けるなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などあった場合はその都度周知しており、臨時薬についても、飲み忘れなど無いよう、服用時間帯や期間が分かるよう記録している。薬の変更があった場合は、特に注意・観察するよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションの中で、脳を使ったトレーニング、体を動かす体操・ゲーム、新聞折りなど作業的なものを取り入れたり、駐車場で食事をするなどして気分転換を図り、日々の生活に刺激を与えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩など、利用者に応じた支援を行っており、家族との外出も積極的にサポートしている。また、定期的に外出機会を設け、初詣や花見などの季節行事も大切にしている。	感染対策のため、散歩や敷地内での外気浴を行っている。季節行事も時期や時間帯、方法を検討しながら、楽しみが継続できるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との外出の際には、自分でお土産を選んで買ってくる利用者もいる。数名の利用者は、本人の希望で数千円程度個人の財布に入れて保管されていて、定期的に家族や職員が確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなくいつでも電話が出来るよう、家族と連携を図っている。難聴の利用者には、手紙を書くように勧め、書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を生け、居間・食堂の壁には利用者と職員が共同で作成した作品を展示しており、季節感を感じながら過ごして頂けるよう工夫している。時々立ち止まって見入っておられる利用者もいる。	職員は、共用空間は温湿度を管理している。利用者の動線上には物品を置かず、安全に居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席では、好きな場所に座ってもらい、テレビの視聴やおしゃべりをして過ごされている。また、一人になりたい時は、居室やテーブル席で新聞を読んだり、読書をしたりして過ごせるよう、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、自宅で使用されていたタンスや鏡台、飾り物、家族の写真等を持参して頂き、居心地の良い空間づくりを工夫している。時々、居室に入られ飾り物を見たり触ったりされている利用者もいる。	自室の印には、顔写真や好みの花や馴染みの物の絵柄を入口に貼付している。室内は家族と利用者の話し合いに職員も相談にのりながら、利用者が安心してくつろぎ、ゆっくり過ごせるよう、普段身近にあった物を配置するなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、本人の写真を掲示し、自分の居室と分かるようにしている。また、トイレの位置が分かるように絵で表示したり、トイレという言葉を使所に代えたりと工夫をしている。		